

お墓にカラフルにペイント

第 15 回のデザイン大賞を受賞したのは東京都八王子市の小野麻紀さん（当時 35 歳）と有紀さん（当時 31 歳）の空に浮かぶ虹のお墓。半アーチ型（四半円）の墓石に、鮮やかな赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の 7 色の虹をペンキで描いた天国に架かる「虹の橋」型。虹の橋の表面には人とペットの足跡が刻まれ、虹の下には空を連想させるガラスがはめ込まれている。ペット好きの姉妹が、亡くなったペットと、天国で再会できるように願ったペットと一緒にのお墓。決して大きく、費用をかけた豪華さはない。しかし、モノクロトーンの墓地の中で、色鮮やかに光彩を放つ。小さいがキラリと光るセンスが評価されて受賞した。



第 19 回では静岡県富士市のい山脇 康知さんが、家族でペイントしたカラフル、ファッションブルな桜が咲くお墓で入賞した。動物が大好きだった優しい父が亡くなったのを機に、お墓を考えることになりました。墓地を選ぶ際、大切にされたことは、花好きの家族なので、春になると桜がキレイに咲く上野公園での父との思い出。そんな家族のお墓だから、明るいデザイン墓にしようと決めていました。石材店さんと打ち合わせをすると、お墓にもいろいろな想いを込めて



いいんだと思うようになり「家族の情景が思い浮かぶお墓」、「訪れた人が思わず写真を撮りたくなるような素敵なお墓」にしたいと思うようになりました。海外のお墓を参考にしながら、いろいろな想いが溢れて次から次へとアイデアが出てきて、何度も打ち合わせを重ねました。墓石の桜の花の彫刻は自分で描いたデザインを元に作成してもらいました。その上で仕上げ作業で、自分達もお墓づくりに参加させてもらいました。彫刻した桜の花びらに、家族みんなで塗り絵のように一筆一筆に想いを込めて、色を入れ桜を咲かせていきました。また、家を新築した時に残ったピンクの石材を桜の花びらの形（やや細長いハート模様）に加工してもらい砂利に埋め込みました。また敷石の部分には幸せの象徴である四葉のクローバーを彫刻、その上にもペイントしました。クローバーも一枚一枚がハート型です。実は墓石の「Love」の文字の中にも、3 個のハートが隠し絵の

ように入っています。おかげさまで色彩鮮やかな、他にはない山脇家らしい世界にひとつだけのお墓になりました。ここならきっと父も寂しくない。ここに来ればいつでも、春のような柔らかな優しい気持ちになれます。

同じく第 19 回では埼玉県さいたま市南区の荒川 礼子さん（当時 45 歳）が、明るくあたたかく照らしてくれる鮮やかな色彩のひまわり入りお墓で入賞。昨年、父が帰らぬ人となり、そして今年、悲しみもまだ癒えぬ頃でしたが、そろそろお墓を建てようという話になりました。寒がりだった父が安心できるよう、そして私たち家族をいつも明るくあたたかく照らしてくれるようお願いをこめて、太陽に向かって咲くひまわりを選びました。そして、このひまわりの花こそが太陽そのものになりました。父が自宅療養していた頃、ベッドから庭のバラの花をきれいだなあと、いつもながめていました。もしかしたら、花の命のはかなさと自分自身を重ね合わせていたのかもしれない。ひまわりは墓碑に彫刻を施した上に塗料で色鮮やかにペイントしてあります。石材店さんの話ではおよそ 20 年間は色彩を保つと言われました。色褪せたら塗り直そうと思っています。家族思いでやさしかった父。ぜいたくなことはせず、いつも仕事ひとすじだった父、たくさんの思い出を、そして私たちの父でいてくれて本当にありがとう。また、お墓参りに来てくださった方々、このお墓づくりに力を注いでくださった方々、すべての方々にありがとう。

